

学校運営協議会会議録

学校名 杉並区立松溪中学校

記録者 渡邊 麗、佐藤 伸彦

開催日時	令和6年11月25日(月)16時00分～17時35分
開催場所	松溪中学校 多目的室
出席者(委員)	西田小:本川校長、諏訪会長、栗原職務代理、坂本委員、原委員、衛本委員
	松溪中:小松校長、檜枝会長、* 恵羅職務代理、石井委員、望月委員
	渡邊委員、* 目黒委員、飯島委員、村木委員、武井委員、佐藤委員 * 両校の委員兼務者
出席者(学校)	松溪中:田崎副校長
傍聴者人数	2名(西田小PTA代表)

会議内容(次第順)

【報告事項】

1. 松溪中CS会長より
2. 西田小CS会長より
3. 両校のCS委員自己紹介
4. 松溪中校長より
5. 西田小校長より

【協議事項】

6. CSの役割や進め方について
7. 探究的な学びの進め方について
8. その他

主な意見

【報告事項】

1. 松溪中CS会長より
・2年前、前教育長より小中の連携の強化を求められました。前回の協議会では、桃二小にも声をかけましたが、西田小と松溪中の合同の会議となりました。ざっくばらんに意見を出し合いたいと思います。
2. 西田小CS会長より
・本来ならばもっと小中の連携が図られるべきですが、今回の会議についてもなかなか事前協議ができませんでした。
・10月末に文部科学省が発表した令和5年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果では、不登校の原因に教員が関係している割合は4～5%でしたが、栃木県の不登校の調査結果では、教員との関係は45%くらいありましたので、疑問を感じています。内輪の研究会の中では、子どもの変化に対して学校の先生が追い付いていないのではないかという意見があります。
3. 両校のCS委員自己紹介(省略)
4. 松溪中校長より
・本校の校長として2年目となりました。前任校の生徒に比べ、本校の生徒は勉強に意欲的だと感じています。だからこそ教員の授業力を高めていくことが必要と考え、研修も行っています。
・本校での副校長時代に比べると、生徒が地域の行事に自主的にボランティアで参加することが増えたと感じています。今後も地域でのボランティア活動で身につく力を大切にしたいと考えています。

5. 西田小校長より

- ・西田小がユネスコスクールに認定されて10年目の節目となりました。先日、本校のこれまでの取り組みをプレゼンし、高い評価も受けました。先輩から受けついで続けている取組みもありますが、新しく課題について調査を進め、将来的には区に提案できるように考えている取組みもあります。
- ・本校の児童は、学力が都や区の平均よりも高く、教員と一緒に取組みを進める真つすぐな子が多いという印象を持っています。また、中学生が行事ごとにたくさんボランティアに来てくれるので、振る舞いや明るさ等は児童の憧れとなっています。

【協議事項】

6. CSの役割や進め方について

- * 区教委主催で開催された杉並CS未来会議に参加した委員からの報告をもとに協議しました。
- ・会議では3つの学校のCSの特色ある活動が報告されました。活動の頻度や熱量は多少違いますが松溪中でやっていることとあまり変わらないと思いました。CSの活動によって、子どもがどう変わったかの話がないのが残念でした。
- ・学校支援本部とCSの委員を兼任することで、連携がとれていることがわかりました。また、学校の行事予定一覧に連携している学校の行事も載せていることで、自然に参加しやすくなることが参考になりました。
- ・CSは何のためにあるのかと考えてしまいます。話し合うだけでも意味はあるとは思いますが、実績が見えなく、手応えを感じられないと思っています。
- ・CSがつくられる際「地域とともにある学校」と示され、教育が学校だけでは立ち行かないと言われているが、何が課題なのか明確になっていないと思います。
- ・時代とともにCSの役割もどんどん変わってきており、その地域の課題もあると思います。
- ・CSがない時代でも地域は学校と連携をしていたと思います。現状の課題は何か、出発点が明確になっていないままに進めようとしていると思います。こういう現状だからと変えなければいけないことが具体的になっていないと思います。
- ・「協働」という言葉があり、「支援」とは異なり、同じ立場で一緒に活動することが大切だと考えます。
- ・西田小では探究的な学びができつつありますが、中学校になると探究的な学びは学校だけに任せるのではなく、地域でも取り組みましようということを協議していくこともできるのではないかと思います。
- ・教員の働き方改革が求められています。分担よりも協働、もっと我々ができることを討論した方が良いと思います。

7. 探究的な学びの進め方について

- * 松溪中での探究的な学びの進め方についての報告をもとに協議しました。
- ・西田小で探究的な学びをして、松溪中ではそれが生かされた授業がしっかり位置付けられ、実施されていることがわかり、喜ばしいことだと思いました。
- ・松溪中の生徒が優秀なのは、西田小で学んできたことがあるからであり、もっともっと伸ばしていきたいと思っています。生徒は自分が持っている力に気づいていないように感じています。
- ・小中学校での経験が大人になった時に知恵となっていると考えています。

8. その他

- * 両校の課題として、次のことが挙げられました。
- ・不登校が多くあります。ずっと部屋から出られない子どもやコミュニケーションをとれない子どもがいるのですが、なかなか改善できずにいます。教室には入れないが、個別対応教室という別室なら入れるという子どももいます。しかし、人手が足りていない現状があります。専門知識を持った人が欲しいと要望もしています。
- ・不登校は、小学校でも大きな課題です。教室に入れない子どもを対応するマイルームという部屋はありますが、やはり人手は不足しています。
- ・年度途中で教員が辞めてしまい、代替りの教員が見つからないという教員不足があります。
- ・療養休暇や産前休暇の代替りの教員も見つかっていません。

次回の会議日程

日時	1月27日(月)16時00分から
会場	松溪中学校 校長室